

学びのイメージを可視化する方法を活用した授業実践の試み

—実践後の理解度に焦点をあてて—

小久保裕美*

1. はじめに

保育士養成科目「児童家庭福祉」を2009年から担当している。「児童家庭福祉」は5つの目標が掲げられている講義科目であり、現代社会における児童を取り巻く環境や歴史の変遷、児童の人権擁護と児童に関わる制度・政策が含まれる。対象学生は2年生、開講は春学期である。当初、テーマごとにプリントを配布しその都度概要を説明しながら授業を進めていたが、心なしか学生の表情がぼんやりしてくるのを感じた。そこでプリントに穴あき部分を入れて学生が記載するように修正し、工夫をした。この方法についての授業アンケートでは、「穴埋めがあってわかりやすかった」という感想を書いた学生がいた。しかし、それでもこの方法では授業中の中で生き生きとした学生の表情は見られなかった。時には、時宜に見合った新聞記事を配布して読み合わせをした。また、テーマに沿った映像を活用して臨場感を醸し出す工夫をして感想を書いてももらったりし、試行錯誤してきた。それでも、なお学生は受け身であり、学生が主体的に取り組む授業を提供できなかった感は否めなかった。おりしも、中央教育審議会（2012）において「新たな未来を築くための大学教育の転換にむけて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が出され、アクティブ・ラーニングを活用した学生の主体的な学びが提起された。大学教育において学生が主体的に授業に取り組むことが重要な課題となってきた。

保育士を目指す学生が関心を向けやすい方法を考案中に、愛知県保育士養成協議会にて服部1の保育実習指導に関する授業方法に関する講話（2016年）を聞く機会があった。服部は授業時に、学生に一枚のA3白紙を手渡し、実習先の事前見学や事前調べに情報をまとめて記載するよう伝えて自由に手書きで描かせていると述べ、その効果について言及した。このとき、学生が書いた手書きの実習先の様子数枚が映像で示され、生き生きとしたイラストが入った施設の情報図が描かれていた。

この講話を手掛かりに、一つの重要なテーマを取り上げた後、学んだことを「まとめ図」として白紙に描く方法を取り入れることにした。保育士は保育現場で壁面作成や保護者への保育通信などでイラストや絵を用いる保育実践活動が多々あることから、絵を描くことは保育士、保育学生に求められるスキルの一つであり、興味をもち得意とする学生が多いことが推測される。そのため「まとめ図」を作成する際に、保育士を目指す学生の特性を生かして絵やイラストを入れることを自由とすることを提案した。学生が興味をもち得意とするスキルを生かした授業実践が学生にどのような理解をもたらしたのか検討する。本稿の目的は、B4白紙を用いてイラストを含め「まとめ図」を手書きで作成する方法を授業に導入することが、学生の授業内容の理解度にどのような効果をもたらしたかを報告することである。

授業方法は、「児童家庭福祉」で取り上げた「子どもの貧困問題」について2回の授業を行った後、3回目にB4白紙を用いた手書きの「まとめ図」を作成させ、その後にアンケートを実施した。なお、B4白紙を用いた手書きの「まとめ図」を作成させる方法は、服部（2016）の方法、白紙を用いること、絵、イ

* 東海学園大学教育学部教授

ラストを用いることを参考にした。対象としたのは54名の受講生であった。「まとめ図」を作成する際に、絵やイラストを入れることを自由とすることを伝えた。以下に、授業内容の流れを示した。

1回目の授業は、文献等より子どもの貧困問題の定義や現状について配布資料中心に講義したあと、2009年6月6日にNHKが福祉ネットワークで放映した「子どもの育ちをどう支えるか」を視聴し、感想文を書いてもらった。この映像を用いた理由は、学生に身近なN市内の保育所のひとり親家庭の母親に関わる園の実践が含まれていたことによる。2回目の授業は前回の感想文の返却を行い、子どもの貧困問題に関連した2つの新聞記事（子どもの貧困の特集記事）の読み合わせをして多角的に子どもの貧困問題を捉える工夫をした。2回の授業の配布資料はプリント2枚（「子どもの貧困対策基本法」及び国の対策を法含む）と資料4枚（新聞記事2枚、子どもの貧困白書の記事）である。3回目の授業で54名の学生（2名の学校教育専攻学生含む）にB4白紙を手渡し「子どもの貧困問題」について学んだことをイラストや図を含めて自由に「まとめ図」として描くように伝え実施した。3人一つ箱入りのクレヨンを用意し、自由に利用できるようにした。また、「まとめ図」作成後に2人1組になり、自分が描いた「まとめ図」の説明をする時間を設けた。その後、アンケート用紙を配布し、論文作成する予定であること伝え、調査協力可能な学生にアンケートの提出を依頼した。回収は受講学生54名中38名（70%）であった。

アンケート内容は、1. B4白紙を用いて授業内容を自由に記述したことは「子どもの貧困」を自分自身が理解するのに役立ちましたか、2. 手書きで作成したことは、パソコン等で作成するより授業の内容を自分自身が理解するために効果があったと思いますか、3. キャラクターや図を活用しましたか、4. 活用した人のみ、キャラクターや図を活用することは授業の内容を自分自身が理解するために効果があったと思いますか、5. この方法について感じたことを自由に書いて下さい、である。問1、問2、問4は、①とても役に立った、②ある程度役に立った、③どちらともいえない、④あまり役に立たなかった、⑤まったく役に立たなかった、の5段階評価にした。問3は、活用した、活用しなかったとし、活用しなかった場合は理由を記載する欄を設けた。

2. 結果と考察

(1) 学生のまとめ図

3名の学生が作成した「まとめ図」（図1：A学生のまとめ図、図2：B学生のまとめ図、図3：C学生のまとめ図）を示す。ここに掲載した3名の学生には論文作成で用いることを口頭で伝えて、それぞれ了承を得た。

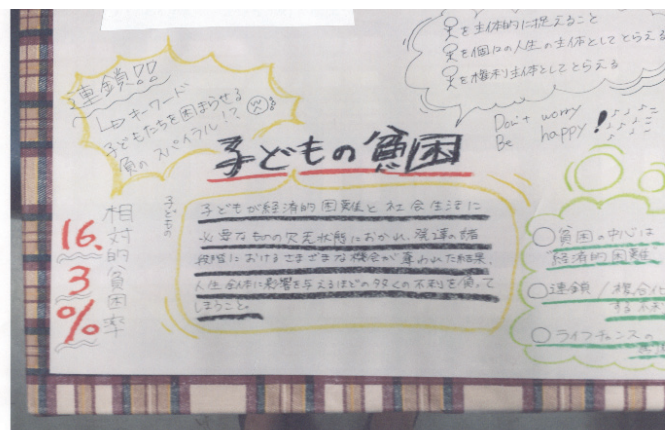


図1 A学生のまとめ図

子どもの貧困の定義を大きく真ん中に描いた。それらを黒下線で強調し、黄色い枠を描いた。左下に日本の相対的貧困率をオレンジ色で強調して記述している。左上には、貧困の連鎖について黄色い枠で強調し、子どもにとって子どもの貧困が負のスパイラルになると顔絵文字を入れて伝えている。また、右上には、子どもの疑似的表現を入れて子どもの権利等を記述している。黒の線で枠取りがある。その下に「Don't worry, Be happy!」とある。また右下には子どもの貧困の結果生じることが、黄緑の枠のなかに緑の協調下線とともに描かれている。

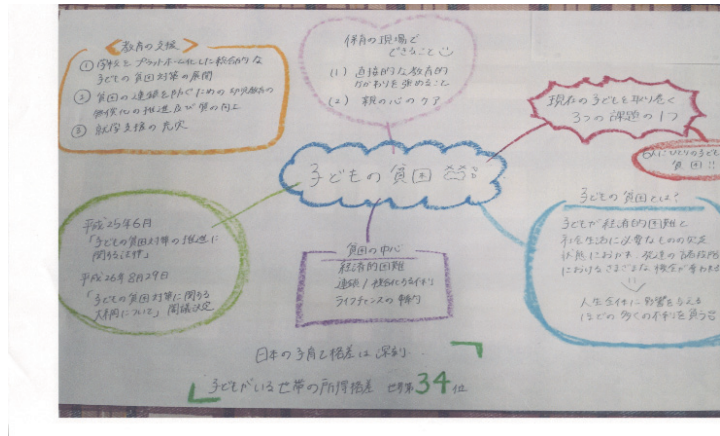


図2 B学生のもまとめ図

まん中に青の枠の中にテーマ「子どもの貧困」が描かれ、横に泣き顔の子どものイラストを入れている。「子どもの貧困」から5つの線が放射状に描かれている。5つの線の1つは、右下の水色の枠のなかに伸び、子どもの貧困の定義が記述されている。2つ目の線は真下に伸び、紫の枠の中に貧困の結果子どもに生じることが描かれている。3つ目の線は左下に伸び、黄緑の線で囲われ我が国の法律等が記述されている。4つ目の線は左上に伸び、赤の枠のなかに子どもの貧困問題が課題と記され、その枠からもう一つ線が伸びてオレンジの枠のなかに6人に1人の子どもが貧困だと書かれている。5つ目の線は上に伸びている。ピンクのハートに枠づけられ、保育現場で出来ることとして学生の考えが描かれている。また、左上にはオレンジの枠内に教育の支援について描かれ、一番下には我が国の子どものいる家庭の所得格差について描かれている。

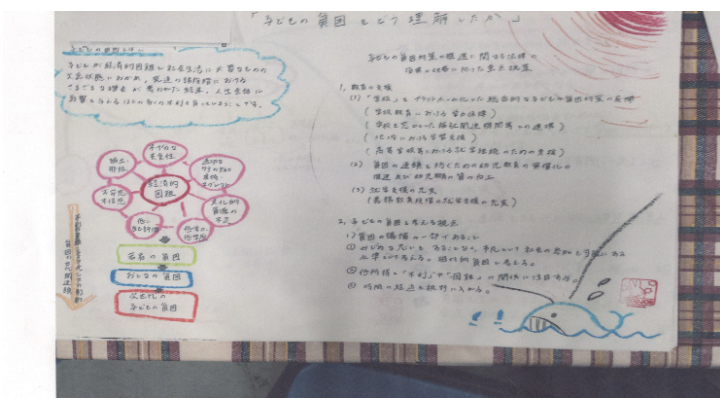


図3 C学生のもまとめ図

「子どもの貧困」テーマが一番上に描かれている。左の上には水色の枠で囲われ、子どもの貧困の定義

がある。その下には経済的困難が子どもに与える影響について赤、ピンクを使い放射線状に描かれている。その下に向かう矢印があり、黄緑囲まれた枠に若者の貧困、青で囲まれた枠におとなの貧困、赤で囲まれた枠に次世代の子どもの貧困と矢印で示して描かれている。またこれらの図の左にはもうひとつ長い矢印が山吹色で描かれ世代間連鎖と理由が描かれている。右側は、黒のペンで法律の重点施策が書かれ、教育の支援、視点が丁寧に文章で書かれている。その上は赤とオレンジのキャラクターである太陽が、下には水色で描かれたクジラのキャラクターが描かれている。クジラは塩を吹いている。

(2) アンケート結果

以下は、アンケート結果である。

B4の用紙を用いて授業内容を自由に記述したことは「子どもの貧困」を自分自身が理解するのに役立ちましたかの評定結果を表1に示した。回答数は38名であった。①とても役に立った、②ある程度役に立った、③どちらともいえない、で回答を求めた。11名(29%)の学生がとても役に立った、20名(53%)の学生がある程度役に立ったと述べている。どちらともいえないと答えた学生が7名(18%)であった。平均値は4.1であった。

表1. B4の用紙を用いて授業内容を自由に記述したことは「子どもの貧困」を自分自身が理解するのに役立ちましたかの評定

評価	とても役にたった	ある程度役に立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	まったく役に立たなかった
点数	5	4	3	2	1
人数	11	20	7	0	0
割合	29	53	18	0	0

手書きで作成したことについては、パソコンで作成するより授業の内容を自分自身が理解するために効果があったと思いますかという設問に対して、①とてもあった、②ある程度あった、③どちらともいえない、④あまりなかった、⑤まったくなかった、の設問で回答を求めた。とてもあったと答えた学生は10名(26%)であった。ある程度あったと答えた学生は19名(50%)、8名(21%)の学生はどちらともいえないと答えた。あまりなかったと答えた学生は1名(3%)であった。平均値は4.0であった。

表2. 「手書きで作成したことは、パソコン等で作成するより授業の内容を自分自身が理解するために効果があったと思いますか」

評価	とても役にたった	ある程度役に立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	まったく役に立たなかった
点数	5	4	3	2	1
人数	10	19	8	1	0
割合	26	50	21	3	0

キャラクターの活用に関しては、31名(82%)の学生が活用した、7名(18%)の学生が活用しなかったと述べた。活用しなかった理由は、どのように活用すればよかったかわからなかった、活用している余裕がなかった、絵を描くのが苦手、クレヨンが太く書きにくかったと書かれていた。

キャラクターを活用した学生にキャラクター活用が授業の内容を理解するのに役立ったか問うた質問

には、9名(27%)の学生がとても役立った、17名(52%)の学生がある程度役だったと答えた。7名(21%)の学生はどちらともいえないと答えた。

自由記述は26名の学生が記述していた。それらをおおまかにまとめると、授業内容の理解度に関する記述、絵の表現について等であった。以下、筆者が行った分類に基づいて掲載する。

表3は、自由記述である。

表3. 自由記述

<p>理解度</p> <p>a. 実際に書くことで自分がどれくらい理解しているのかを確認することが出来るから良いと思ったが、私自身絵で何か表現することが苦手で少し苦痛だった。</p> <p>b. 授業の内容を自分でまとめることでより深く理解できました。</p> <p>c. パソコンで作るよりも自分の手で書いたほうが覚えやすいし、理解が深くて良いと思いました。</p> <p>d. 自分がどこまで理解しているか確かめることができた。次回からも実施したほうが良い。</p> <p>e. 自分の中で何か大切なかをしっかりと理解し伝えることやまとめるということがないと、わかりやすいものにならないと思った。</p> <p>f. 子どもの貧困に対する理解が分かりやすいと思った。</p> <p>g. 自分が理解できているかどうかわかる。復習が出来る。</p> <p>h. 手書きだと理解してわかりやすく書こうと働くので良い方法だと思った。</p> <p>i. イラストも描くので楽しみながら理解できた。イラストを描いたり、まとめることは現場でも役立つと思う。</p> <p>j. どうすれば伝わりやすい紙になるか考えるために再度、何が重要なかを考えることが出来、理解に役立ったと感じた。個人的には手書きがやりやすかった。</p> <p>k. 自分で考え書くことでインプットしやすいので良い方法ではないかと思った。</p> <p>絵の表現</p> <p>a. 私自身絵で何か表現することが苦手で少し苦痛だった。</p> <p>l. 色と絵でまとめるのは難しかった。</p> <p>m. 絵で表現してみると、これだけ内容が分かっている。周りとは比べるとここがぬけているということがわかった。</p> <p>n. 絵を描くのが苦手なため少ない時間で描こうと思えなかった。パソコンのほうが良かった。</p> <p>o. 絵で表現するのか、自分なりにまとめながら絵も取り入れるのか、もう少し説明があるとわかりやすかった。</p> <p>p. 誰にでもわかりやすく書くために、絵を入れて書くことは良いことだと感じた。</p> <p>q. パソコンの文字ばかりではなく、いろんな色や図の配置が自由なので自分の好きに作れる。</p> <p>r. 色付けで強調ヶ所がわかる。色づけが良い。</p> <p>その他</p> <p>s. 話を聞くだけの授業より楽しいし、頭に入りやすいと思いました。</p> <p>t. 一人ひとり個性がでていて面白いと思った。</p> <p>u. 将来、役に立つと思った。</p> <p>v. 手書きは楽しかったけど、まとめるのが大変だった。</p> <p>w. パソコンを使う作業より、分野ごとに分けて書く作業がやりやすかったです。</p> <p>x. 時間的にまとめるのが大変だった。</p> <p>y. パソコンでも手書きでも大差ない。</p> <p>*である調とですます調が混在するのはアンケートに記載されていたままと記載したためである。</p>
--

3. 考察

この授業は、「児童家庭福祉」の2回目から4回目に実施した授業である。第1回目の授業時、学生に「子ども福祉」のイメージについて記述してもらった無記名のアンケートを行った。子どもをサポートする、施設・環境を提供する、子どもの健康を考える、児童虐待などの記述が主だった。これら記述は漠然としたイメージが書かれたといえる。そのあと4回目の授業で課した「まとめ図」作成では、子ども貧困の背景（図1、図2）、子どもの貧困の定義（図1、図2、図3）、子どもの貧困を考える視点（図2）、子どもの捉え方（図1）、子どもの貧困と法律（図3）、教育の支援（図2、図3）など、保育現場で出来ること（図3）がわかりやすく記述されている。1枚の白紙をいっぱいを使い、色を用いて枠を作り（すべての図）問題の関係性や課題、解決方法まで視座に入れて描かれていた。

自由記述には、「自分で描いて理解しやすかったと」、「どうすれば伝わりやすい紙になるか考えるために再度、何が重要なのかを考えることが出来、理解に役立ったと感じた」と記述した学生がいた。このように理解のために良かったと回答した（自由記載）学生が10名いた。

イラストは、7名の学生が活用しなかったと述べた。活用しなかった理由に、「絵を描くのが苦手」という回答があった。自由記載にも、「a.私自身絵で何か表現することが苦手で少し苦痛だった」、「n.絵を描くのが苦手なため少ない時間で描こうと思えなかった」という回答があった。保育者として仕事の一部で絵を使うことがあっても、絵を描くことが得意な学生とそうでない学生がいるということだ。31名（82%）の学生が「役に立った」と述べた。平均値は5段階評価の4.1である。手書きに対する評価は、29名（79%）が「役に立った」と述べた。平均値は5段階評価の4であった。同様に54名の学生を消極的な立場としてカウントすると、平均を少し上回る54%の学生が「役に立った」と述べたことになる。

「子どもの貧困」を自分自身が理解するのに役立ったかという質問に31名（82%）の学生が役に立ったと述べた。平均値は5段階の4.1であった。さらに手書きに対する評価は、29名（79%）が「役に立った」と述べていた。平均値は5段階の4であった。これらの結果から、多くの学生が白紙の用紙に学びのイメージを手書きで表現するという手法によって、理解度が高まったと評価しているといえる。学生の自由記述に「理解が深くてよい」「次回からも実施したほうがよい」の言葉もあった。このように評定値および自由記述の結果から、今回導入した方法は学生の理解度を高めることが確認できたといえる。今後はさらに質問項目を精査し、再度、「まとめ図」を描く授業を実施し、受講学生全員のアンケートを取り、その結果を報告したいと思う。

参考文献

- 1) 服部次郎（2012）：保育者・教師養成課程における初年度教育としての施設（学校）見学を充実させる事前学習の実践—学生が主体的に学ぶことを目指した「施設調べ」の試み—：椋山女学園大学教育学部紀要5（147-164）
- 2) 服部次郎（2016）：保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び（学びの主体性）の促進を目指した授業の試みについて—「手書きA3課題」を授業に活用することの意義とその効果—
- 3) 中央教育審議会（2012）：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）